

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における  
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」  
平成23年度委託事業完了報告書  
【推進校】

都道府県名	山口県	番号	35
-------	-----	----	----

推進校名	山口県岩国市立川下小学校	研究主題	Ⅱ型
------	--------------	------	----

1. 重点課題への取組状況

(1) 授業公開週間

お互いの授業の様子を自由に参観し合い、授業評価を行うことにより授業改善、授業づくりを図ることを目的として、学期毎に1週間、年間3回の授業公開週間を設定した。

1回目…6月13日～17日    2回目…10月17日～21日    3回目…2月20日～24日

(2) 授業評価

○同僚による授業評価

授業を参観する際には授業評価紙を活用し、8つの観点で授業評価を行った。はじめは、4～1点の点数法を用いたが、「記入しにくい」という意見が出され、記述法に変更した。

○児童による授業評価

同僚による授業評価と同様に、児童による授業評価にも取り組んだ。児童による授業評価は、単元の終了時や学期末に実施し、評価を次の単元や学期に活用する場合はほとんどだった。そこで、単元の学習中に児童による授業評価を毎回行い、その結果を次の学習に反映するという評価も試みた。

(3) 「家庭学習の手引き」作成

昨年度の研修の反省をもとに、全校で共通の「家庭学習の手引き」を作成した。学力の向上をめざして家庭学習の時間や内容、進め方を示すことにより、学校と家庭が連携して取り組むことをねらいとした。

低・中・高学年向けに「家庭学習の進め方」も作成し、「家庭学習の手引き」とあわせて配布した。学級懇談会や学年だより等で児童や保護者に積極的にはたらきかけた。

(4) 授業研究を中心とした校内研修

- ①部会代表による授業      ②授業後の協議会（成果と課題） ③授業後の協議会（改善指導案の作成）



④指導者による受指導



⑤再提案授業の話合い（部会）



⑥再提案授業の実施



## 2. 調査研究の成果及び今後の課題

### (1) 授業公開週間・授業評価

#### 【同僚による授業評価の感想】

授業研究や参観日などの授業を行ったり、参観したりすることが教師の授業力を高めることはもちろんであるが、日ごろの授業の様子を見せ合い、互いに気づきを交流し合う中に、「構えた」授業にはなかなか現れない授業づくりのツボやコツが姿を見せることもある。教師は自分の授業を見せることへの抵抗感をもつことが多いが、授業公開週間を設定し、期間内に最低一回は他のクラスの授業を参観することにより、まずは気軽に授業を見せ合ったり、授業について話題にしたりできる雰囲気作りをねらった。担任する学級の授業もあり、なかなか参観の時間を確保することは難しいが、期間中は廊下側の窓や出入口を開けておく学級が増えるなど、授業を公開することへの抵抗感は薄れてきたように思われる。

授業後には参観者が授業評価シートを授業者に提出した。8つの観点ごとに成果と課題が記入されており、本時の授業を振り返るとともに翌日からの授業改善にすぐ役立てることができた。

#### 【児童による授業評価の感想】

これは、5年生算数「面積」の学習時において、毎回児童による授業評価を行った結果である。単元の途中に毎回実施したことで、自分の授業を児童の立場から捉えることができ、翌日の授業づくりにすぐに活かすことができた。児童のつまずきの状態や理解不十分な部分を把握し、次の学習までに個別指導を行ったり、児童の質問や興味関心に答えたりすることができ、効果は大きかったと思われる。また、観点毎に評価を数値化することで、自分の授業を振り返ることができ、数値の高い観点は継続しようという思いで、また数値が低かった観点に対しては、その原因を考え、授業を改善しようと試みることができた。

#### 【児童による授業評価 1回目 2回目 3回目】

		1回目	2回目	3回目
1	よく考えたり、聞いたり、発表したりした。	75.3	84.3	83.6
2	自分の考えが安心して発表でき、友達や先生もしっかりと聞いて認めてくれた。	79.7	84.3	84.4
3	この授業は分かりやすかった。	88.3	97.7	93.8
4	先生は、図や道具などを使って、分かりやすい授業になるように工夫していた。	92.2	95.3	94.5
5	先生の話し方や質問は分かりやすかった。	89.8	95.3	96.9
6	先生の黒板の書き方は分かりやすかった。	93.0	96.1	96.9
7	授業中、ゆっくり考えたり、解決したりする時間があった。	89.8	94.5	93.0
8	分かりにくい時に、先生は、教えてくれたり声をかけた。	75.8	88.3	88.3

#### 【授業評価に記入された児童の感想】

##### ○1回目

- ・面積の求め方が少し分かりにくかった。
- ・三角形や直角三角形の面積が簡単に求められるので、面積の学習が楽しくなってきた。
- ・進んで意見を述べることができた。
- ・主体的に話し合えた。次の学習が楽しみだ。

##### ○2回目

- ・面積の求め方は、いろいろあった。
- ・平行四辺形の面積の求め方をグループで話し合ったから、考えが深まった。
- ・一日中算数で、宿題も算数でいいです。
- ・はじめは分かりにくかったけど、少しずつ分かってきた。
- ・先生の黒板の書き方が、とても分かりやすかった。

##### ○3回目

- ・色々な図形の面積の求め方をもっと知りたいと思った。
- ・台形の面積の求め方がばっちり分かった。
- ・難しかったけど学習はおもしろかった。

## (2) 家庭学習の手引き

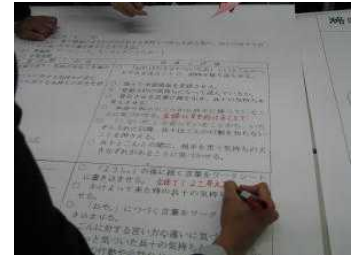
### 【児童の変容】

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| ・家庭学習のやり方が分かった。             | ・自主学習ノートがあるから、疑問に思ったことはすぐに調べるようになった。       |
| ・勉強する習慣がついた。                | ・今まで新聞を見なかったけど、今頃は良い記事はないかと隅々まで読むようになった。   |
| ・宿題の他にどんなことをやればよいのかが分かってきた。 | ・自主学習をしていると、お母さんに「よく、勉強してるね。」とほめられるようになった。 |
| ・辞書など自分で調べる力がついた。           |  |
| ・前より宿題が早く終わるようになった。         |  |

## (3) 改善指導案の作成と再提案授業

### 【教師の感想】

- 実際に改善した授業を行うことができるこの方法はよい。
- 指導案の基本的な形を残しながら、より改善するにはどうしたらよいのかを考えたのが有意義だった。
- 改善点を指導案に戻すという形式の研修は初めてで、何をどうすればよりよい授業になるのかまで検討でき、自分自身のためにもなった。PDCAのアクションに結びつきやすい研修方法である。
- 4グループからそれぞれ見方の違う指導案が提案され、自分の考えに広がりもてる。



改善指導案作成（ワークショップ）

## (4) 校内研修で学んだことを日々の授業実践へ活用

### 【教師の感想】

- ・まずは教室を自分の思いを表現し合える“安心できる場”にすること、スキルを高める授業をし、朝の会や帰りの会を使って“繰り返し定着”させること、そして発言したことに対して“価値付け”を忘れないことの3点を明日からぜひ実践してみようと思う。
- ・話合いの際、だまっている子の興味を引き出せるよう応じ方のモデルを示したり、話し手に明確化を促したりする方法を試してみたい。
- ・指導案は練ってもこれで十分ということはない。改善指導案の話合いにより、授業の進め方もがらりと変わってくることを痛感した。さらに研究が必要だということを肝に銘じ、取り組みたい。
- ・根拠・理由をはっきりさせた発表の仕方や、理由や根拠を引き出す発問を考えていきたい。

## (5) おわりに

「基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、その活用をめざした授業づくり」を研修主題として校内研修を進めてきた。全員が低学年・中学年・高学年の3つの部会にそれぞれ所属し、各部会のサブテーマに沿って分かる授業を求めて教師の授業力の向上をめざした。学期に1回取り組んでいる授業公開週間によるお互いの授業参観や授業評価を通して、ミニOJTを取り入れた授業改善にも積極的に取り組むことができた。3部会に分かれての研究授業では、外部講師による的確な講評、改善指導案による再授業提案、さらに自分自身の授業を見直す視点をいただき、日々の授業で勝負する教師力の向上につなげることができた。小学校の学習の積み重ねによる義務教育6か年、さらに中学校に向け身につけさせたい学力をお互いに確認し、「家庭学習の手引き」も各家庭に配布し、学校と家庭が一体となって確かな学力の定着に取り組むことができた。

学校教育目標である「豊かな心もち、主体的に生きる児童の育成」をめざして、今後も一人ひとりの学びを大切に、生きて働く学力の定着に向け、さらに研修を深めていきたい。